



東一の手紙

久しぶりで、東京のよーすをおしらせいたします。
先月はなかくにぎやかで、おもしろうござい
ました。第一番には、英吉利の艦隊が横濱に集つて
來まして、十三日ころからその歓迎がなかく盛
でした。司令長官はノーエル大將で、この方は四
十年程前に、一度日本へ來た人で、其時は少尉で

あつたのだ相です。

夫がすむと二十二日には、東郷大將の凱旋が
ありました。新橋から二重橋までは丸で人の山で萬歲
々々といふ聲は天にまでも響き渡つたと思ひます
東郷さんは眞實にえらいねー、君。

すると其翌日は觀艦式で、東京中の學校は皆お休
になつたのですよ、そして僕の兄さん等は朝の二
時から歩いて東京から六里程もある鶴見といふ所
まで行つて拜觀しに行きました。僕も行きたくつ
て行きたくつて、お父さんに随分ねがつて見たが、
子供が行つては危いといつて、どうしても許して
くれませなんだ。僕は太層不平をいつて見たが、
後で兄さんに聞いて見たら、それこそ人で人で、
子供などはとても漁車にも電車にも乗れない位だ
つたといふ事だつたから、行かないでよかつたと

思ひました。けども、夫から一週間は、日本の艦隊（百七十八艘もゐるんですよ）が、まだ東京灣に居て、軍艦の中を誰にでも見せて下さる相だから近い中にお父さんに連れてつて貰ふ約束をしました。

それから觀艦式の翌日は、東京市中の東郷大將歡迎でね、君、これが又大層なものでしたよ、凱旋門なんて立派な門が、新橋から上野までの間に幾つも出来て居て、東郷大將は立派な花馬車に乗つて、其を通られると、其道筋には何十萬といふ、人が出て萬歳〜といつてお迎ひをする、上野ではぼーんぼーんと、煙火が何百本となくうち上げられる、町中國旗と提灯とで飾つて居る、こんなに勇ましいのは、僕が生れてから、始めての様だつたよ。眞實に東郷さんは、えらいねー、君

こんな風で、先月は中々忙がしかつたのです。今度の日曜日には、僕はお父さんに、團子坂の菊人形を見につれて行つて貰ふ積りで、其次の日曜頭には、兄さんに、瀧の川へ連れてつて下さいと頼んでるのです。そしたら、又其事をかいて君にお知らせさせよう。さよなら。

十一月五日

東

一

西藏君

いそぶの話

狐が鶴を困らせてやらうと思つて、ある晩、ごちそーをするからといつて、自分の家へ招びました。鶴はどんな御馳走か知らんと思つて、喜んで行きましたが行つて見て、弱りました。甘し相なお汁